

民研
フォーラム
2026①

不登校35万人時代の 教育を問う

2026年7月11日(土)

13:30～16:30

全国教育文化会館 5階
オンライン併用

(事前申込みしてください)

★参加無料 希望者は

7月9日までに下記フォームへ

<https://forms.gle/Ptm5ovwPXgMLjz3b8>

※メール(office@min-ken.org)の
場合は、氏名・フリガナ・メールアドレス・所属・参加方法を記入。
前日に案内と資料を送ります。



不登校が拡大し続けているという事実に関われているのは、もはや子どもたちにウェルビーイングを保障する場ではない学校空間そのものであり、それを支える教育制度あるいは公教育の在り方である。その背後には、競争や同調を前提とした学びの構造、評価と管理が優先される制度、そして子どもの声が十分に聴き取られない教育環境があるのではないか。そこに息苦しさを覚え、身体や心が拒否反応を示すことは、決して異常なことではない。不登校という子どもたちの行為は「沈黙」ではなく、学校に向けられた切実な「声」として捉えられるべきである。

(『人間と教育』130号特集扉より)

◆ プログラム ◆

○ 報 告

「不登校問題のこれまでとこれから」 馬場久志さん(日本薬科大学)
「不登校の子どもを持つ親の思いと学校」

(登校拒否・不登校を考える東京の会)

「教員文化をケアの視点から問い直す」山田哲也さん(一橋大学)

※ 報告タイトルは『人間と教育』での執筆タイトルです。

○ 質問・討論

主催 民主教育研究所 東京都千代田区二番町 12-1 全国教育文化会館 6F
Tel 03-3261-1931 Fax 03-3261-1933 office@min-ken.org <https://www.min-ken.org>